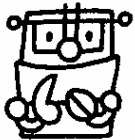


小 / 理科 / 6年 / 地球と宇宙 /
星の動き / 理解シート

夏の間は、冬の星座は、どうなっているの



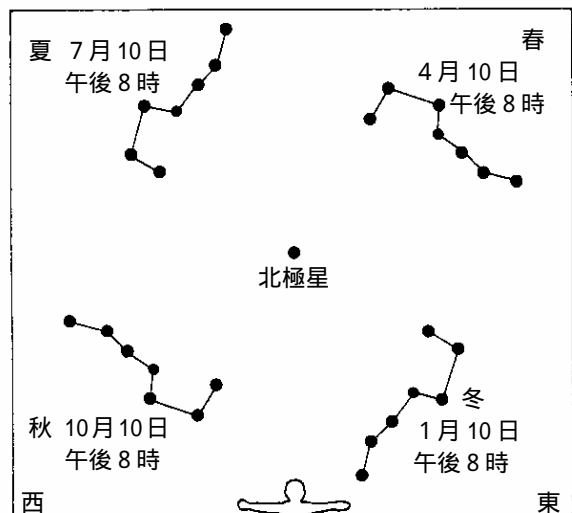
夏には、冬見える星座は昼間空に上っているため、太陽の光にかくれて見えないのさ。

冬の星座といわれているのは、冬の夜、空に上ってくる星座です。南の空の星座は、毎日同じ時刻に観察してみると、少しずつ、位置が西のほうへ移動しているのがわかります。同じ星座が、毎日4分ずつ早く出てくるようになるためです。そのため、同じ時刻に観察すると、季節が変われば少しずつ新しく見える星座が現れ、それまで見えていた星座は、西のほうへずれ、やがて見えなくなります。

北の空の星座は、毎週同じ時刻に観察すると、少しずつ位置が動いていますが、北極星を中心にして、時計の針とぎやく回りに、円を描くように動いて見えます。そして、夏と冬では、同じ時刻に見える北斗七星は、北極星を中心に反対側に見えます。つまり、北の空の星座は、1年中、どの季節でも見ることができます。

夏の星座は、冬になると、昼間、空に上っている

空全体が北極星を中心に、大きな円を描くように回っていると考えると、星座の動きがわかりやすくなります。実際は、地球が、北極星のほうに頭を向けたコマのように、回転しながら、太陽の周りを1年かかって回っています。そのため、季節によって地球の位置が変わり、見える星座もちがってきます。夏の星座のさそり座は、冬になると、地球からは、太陽の方向にあるため、昼間空に上っていて、強い日光にかくれて、見えません。



< 北斗七星の1年の動き >

もっと知りたい人へ：「季節によって見える星座がちがうのは、なぜなの」も見てみよう。